

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-イ	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進		
施策	①科学技術・スポーツ・文化芸術人材の育成			
主な取組	沖縄サイエンスキャラバン構築事業	実施計画 記載頁	369	
対応する 主な課題	本県は科学技術を中心とした知的産業クラスターの形成を目指しており、県内人材の科学技術水準の向上が求められているが、県内をはじめ全国的にも理科離れが顕著であることから、幼い頃からの体系的な理数教育を展開し、子どもたちの科学に対する興味関心を高めるほか、優れた若手研究者等への支援をはじめとする専門性を有する人材の育成を図る必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	子どもたちの科学技術に対する興味・関心を高め、科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、以下の取組を行う。 (1)関係機関との連携ネットワーク及びコーディネート機能の構築、(2)出前講座等の実施、(3)科学に関する課外活動等への支援、(4)地域科学コミュニケーターの育成						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10回 出前講座 等開催数 5人 地域科学コ ミュニケーター派 遣者数					→	県 事業者
	研究機関や企業等による出前事業の実施、課外活動の訪問支						
担当部課	企画部 科学技術振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
沖縄サイエンス キャラバン構 築事業	89,661	82,384	沖縄の科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、NPO法人等のコーディネーターによる県、産業界、教育機関等が一体となった科学技術人材育成システムを構築するとともに、出前授業や課外活動等への訪問支援を行う。 【一括交付金(ソフト)】	再掲 3-(5)-エ 208頁
活動指標名			計画値	実績値
・出前講座等開催件数			10回	20回
・地域科学コミュニケーター派遣者数			5人	15人
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	出前講座等については、計画値以上に開催することができ、また、地域科学コミュニケーターについても計画値以上に発掘することができた。その結果、多くの児童・生徒及び保護者も含めた関係者の科学技術への関心を高めるとともに、今後、地域で人材育成を行っていくための取り組みを進めることができた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
沖縄サイエンス キャラバン構 築事業	72,445	沖縄の科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、NPO 法人等のコーディネーターによる県、産業界、教育機関等が一 体となった科学技術人材育成システムを構築するとともに、出 前授業や課外活動等への訪問支援を行う。 【一括交付金(ソフト)】	—

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、取組の進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
学校現場等における出前講座開催件数	44件 (23年)	98件 (24年)	50件	54件	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明 学校現場等における出前講座開催件数は、基準値と比較して54件の増加となっている。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・特に離島地域においては、教育現場においても科学の楽しさや奥深さを伝える人材が不足している。
- ・学校教育現場以外の科学技術に触れる機会のある場として学童保育施設の現状調査を行った結果、施設数や学童の放課後を過ごす環境の違いなど地域の課題が異なっていることが判明した。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

地域において持続可能なシステムを構築していくためには、地元の企業や産業界との更なる連携が必要である。

4 取組の改善案(Action)

- ・地域科学コミュニケーターの育成、持続可能なシステム構築を進めていくために、地域における産業構造や教育環境を類型化し、地域の関係機関、関係者の役割、課題を明確にする。
- ・学童保育施設だけではなく、地域の公民館や図書館を活用した出前講座を行い、全ての子どもたちが科学技術に触れることのできる機会のある場を提供する。

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進		
施策	①大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進			
主な取組	国際共同研究拠点構築(知的・産業クラスター形成推進事業)	実施計画 記載頁	371	
対応する 主な課題	<p>少子高齢化、グローバル化などを背景に多様化・複雑化する社会的、時代的要請に的確に対応できる専門的な人材を養成していくためには、県内大学等の独自の理念を掲げた学校運営を尊重しつつ、ニーズに対応した特色ある教育研究を促進する必要がある。</p> <p>大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。</p>			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	国外研究機関との組織間・研究者間のネットワークを構築するとともに、国際研究拠点としての基盤の構築、地位の確立、知的・産業クラスター形成を図るため、本県の研究ポテンシャルや地域特性を活用した国際共同研究に対し支援を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件 支援件数				→		県 研究機関等
	国際共同研究への支援を通じた研究ネットワークの強化						→
担当部課	企画部 科学技術振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
知的・産業クラスター形成推進事業	252,099	198,804	海外とのネットワーク構築に向けて国際共同研究2件の支援を実施した。【一括交付金(ソフト)】	再掲 3-(5)-ア (200頁) 3-(5)-イ (201頁) 4-(2)-ア (332頁)
活動指標名			計画値	実績値
支援件数			1件	2件
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	海外とのネットワーク構築に向けて国際共同研究実施したことで、国内21機関、国外24機関との研究に向けた連携をスタートすることができた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
知的・産業クラスター形成推進事業	181,516	海外とのネットワーク構築に向けて国際共同研究2件の支援を行う。【一括交付金(ソフト)】	—

(3) これまでの改善案の反映状況

平成24年度の選定委員会において当該事業の進捗等を毎年度評価する必要があるとの指摘を受けたことから、平成25年6月に平成24年度分の評価委員会を開催し、今後の取組へ反映させることとした。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明 計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

【内部要因】
国際共同研究事業については、研究テーマの公募時は3年間研究を継続した後に評価委員会において継続の可否を評価することとしていた。しかし、平成24年度の選定委員会において、研究・取組の達成度やネットワーク構築などの進捗等について毎年度評価する必要があるとの指摘を受けた。

【外部要因】
国内の景気低迷等から、民間企業等による研究開発費が減少しており、継続的な公的資金による研究開発支援及びネットワーク構築がますます重要となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

国際共同研究事業は、海外ネットワークの構築が大きな目的であることから、海外研究機関等との連携に係る取組について継続的に推進する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

海外研究機関等との連携にかかる取組について継続的に推進するとともに、今後も評価委員会を毎年度末に開催し、当該年度実施した研究・取組の達成度やネットワーク構築などの進捗等について評価を行うとともに、公的資金による研究開発支援についても継続して取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進		
施策	①大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進			
主な取組	知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業	実施計画 記載頁	371	
対応する 主な課題	<p>少子高齢化、グローバル化などを背景に多様化・複雑化する社会的・時代的要請に的確に対応できる専門的な人材を養成していくためには、県内大学等の独自の理念を掲げた学校運営を尊重しつつ、ニーズに対応した特色ある教育研究を促進していく必要がある。</p> <p>大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。</p>			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄科学技術大学院大学等を核とする知的クラスター形成に向け、研究拠点となる共用研究施設を整備するとともに、県内外研究機関の連携による共同研究事業を実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	3テーマ 支援件数		→			→	県 事業者 研究機関等
	共用研究施設の整備及び共同研究の支援 知的・産業クラスター形成に向けたシ						
担当部課	企画部 科学技術振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業	650,000	592,938	研究拠点としてオープンリサーチセンターの整備及び管理運営を行い、4テーマの共同研究を実施した。また、シンポジウムやセミナーを開催し、クラスター形成の取り組みや研究内容の情報発信を行った。【一括交付金(ソフト)】	再掲 3-(5)-イ (201頁)
活動指標名			計画値	実績値
支援件数			3テーマ	4テーマ
—			—	—
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	オープンリサーチセンターを研究拠点とした共同研究を実施することにより、県内外研究機関や企業との連携及び研究ネットワークの充実・強化が図れた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
知的クラスター形成に向けた研究拠点構築事業	469,691	研究拠点としてオープンリサーチセンターの管理運営を行い、3テーマの共同研究を実施する。また、シンポジウムやセミナーを開催し、クラスター形成の取り組みや研究内容の情報発信を行う。【一括交付金(ソフト)】	—

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	県内外大学や研究機関さらに企業との共同研究を実施するとともに、一般向けにシンポジウムやセミナーを開催し、知的クラスター形成の取り組み紹介や研究成果の情報発信を行っている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

プロジェクトによる共同研究数(4件)、さらに県内研究機関・企業等との共同研究及び連携数(34件)のいずれも目標を達しているが、さらにネットワークを広げていくには県内外への情報発信にも力を入れていく必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

これまでどおり共同研究を実施して研究機関や企業との研究交流を推進するとともに、イベントへの参加やメディア等を活用して情報を発信しネットワークのさらなる拡大を図っていく。

4 取組の改善案(Action)

引き続き研究ネットワーク構築のための共同研究を実施するとともに、情報発信を行うことにより知的クラスター形成の取り組みの周知を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進	
施策	①大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進		
主な取組	地域における研究者の研究成果の情報発信	実施計画 記載頁	371
対応する 主な課題	大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄科学技術大学院大学を県民へ広く広報し、大学院大学の取組や科学技術に対する知的好奇心を向上させる。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	施設見学: 通年、出前講座: 各実施主体年2回程度					→	
	研究機関や開発企業等による施設見学、県民向け出前講座等						
担当部課	企画部 科学技術振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
-	-	-	沖縄科学技術大学院大学により、通年を通じたキャンパスツアーや、3月に開催されたオープンキャンパス等を県民会議事務局として支援した。	再掲 3-(5)-ア (200頁)
活動指標名			計画値	実績値
研究機関や開発企業等による施設見学、県民向け出前講座等の実施促進			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	沖縄科学技術大学院大学は通年を通しキャンパスツアーによる来客を受け入れ、施設の案内等を行っている。高校生招聘プログラムも同時に開催し、これまで4千人余の高校生を大学院大学へ訪問させ、研究施設や実験の様子などを視察させ、理数系の学習意欲促進に繋げている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
-	-	高校生招聘プログラムをより充実させ、離島地域への訪問講演会を開催。県は県民会議事務局として支援している。	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

離島地域の児童生徒には、大学院大学の周知が未だ不十分であるため、今年度は未開催の離島高校における講演会を開催する。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
-	-	-	-	-	-
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-

状況説明

年度計画達成に向け、大学院大学や離島高校など関係機関との調整を進めている。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

本県には、国家プロジェクトにより設立された大学院大学(OIST)が存在しており、世界中から優秀な研究者や学生が集結し、世界最高水準の教育研究が行われていることを広く県民へ広報することで、県民意識の向上や県民子弟の科学に対する好奇心の向上、理科系人材の育成に繋げる。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

科学実験教室開催地域の拡大や集客児童の増加、大学院大学オープンキャンパスへの集客増加を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

県や県民会議との連携を強化し、未開催地域における科学実験教室の実施や大学院大学オープンキャンパスへの集客増加のための方策を検討する。また、県の広報ネットワークを活用するなど、より広く県民向け広報を効果的に行う。